

小学校 第6学年 国語科 学習指導案

北海道教育大学釧路校
長屋 樹廣

単元名

自分の経験と重ねて読み、考えを広げよう
『ぼくの世界、君の世界』（8時間）／『あなたはどうか感じる？』を含む

単元のねらい

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

本時のねらい

文章を読んで筆者の考えを整理することができる。

指導時期

11月

指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することで、学級全体で情報の視覚化・共有化を図ることができるため、より全員参加の授業に近づくものとする。紙の教科書では、学習者より「〇〇ページの△△行め」という発言があった時に、必ずしもその情報を各自の手もとの教科書で追えていない学習者がいた。しかし、「指導者用デジタル教科書（教材）」でサイドラインを引くことによって、「ここを見てください。」と学習者が示しながら発言することが可能となる。

さらに「デジタルメモ」を使用することで、本文から離れずに情報を整理することができ、学級全員の理解につながる可能性が広がる。また、これまでの授業実践では、黒板に書き出す時間がかかっていたが、簡単に本文を抜き出すことができる「デジタルメモ」を活用することによって、大幅に書く時間を削減できる。書く時間を短縮することにより、その分、思考・判断・表現の時間を増やすことができ、より充実した授業を展開することにつながっていくなど、大きなメリットがある。

「指導者用デジタル教科書（教材）」を使用することで、本文の叙述をもとに、情報をよりわかりやすく整理したり、話し合いの論点を焦点化したりすることができる。論点を視覚化し、共有していくことで、全員参加の授業が可能になるなどの効果が期待できる。

本時（第2、3時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 - 前時を振り返り、学習のめあて（事例と筆者の考えを整理する）をつかむ。	

事例と筆者の考えを整理しよう。

- 『ぼくの世界、君の世界』の全文を音読し、第6段落の「昔から大真面目に議論されてきた問題」とはどのようなことか、確認する。

T：「昔から大真面目に議論されてきた問題」とはどのような問題でしょうか。

C：自分に見えているものは、あくまでも、自分にそう見えているだけで、他の人にも同じように見えている保証はどこにもないということだね。

C：見えているものが同じかということが不安にもなるよね。

- 事例と筆者が考えていることを「デジタルメモ」を活用して整理する。

事例：「あまみ」と「痛み」の感覚

T：筆者が「あまみ」と「痛み」の事例から考えたことはどのようなことでしょうか。

C：あまみや痛みの「程度」がずいぶんちがうかもしれないということだと思ふよ。

C：言葉だけが共通しているということもあるよね。

C：同じあまみや痛みだとは証明できないね。

T：「あまみ」と「痛み」の事例を通じて、筆者が伝えたいことはどのようなことだと思いますか。

C：自分の感じていることと、他の人が感じていることが同じであるという保証はないということだね。

C：そのために、「程度」の話や感覚のちがいの話をしてきたよね。

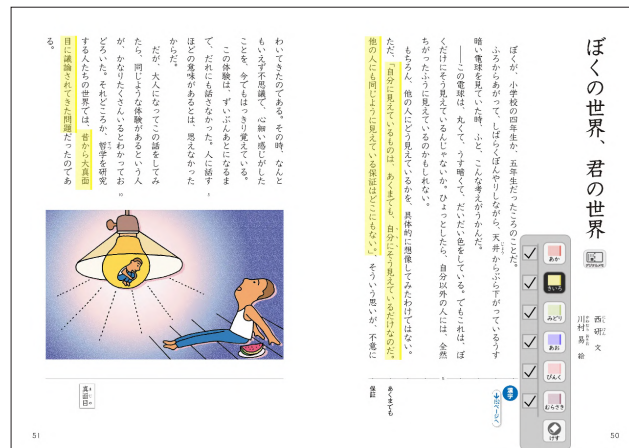
事例：好きなアニメの話をする時

T：筆者がアニメの事例から考えたことはどのようなことでしょうか。

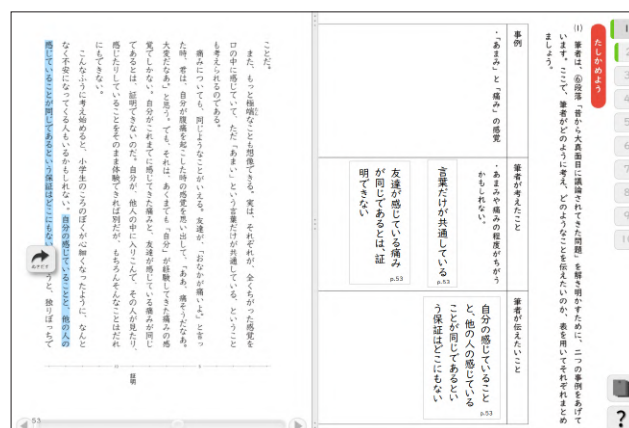
C：「言葉のキャッチボール」をしている時、友達もうれしくて気持ちをはずませているはずだと考えたと思ふよ。

C：「言葉のキャッチボール」をしていると、感じ方のちがいに気づかされることもあるということだと思ふよ。

- 「国語マーカー」を使い、児童の発言をマーカーで引いていく。



- 「デジタルメモ」を用いて、筆者が考えたことと筆者が伝えたいことを、本文から抜き出していく。



	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	T：アニメの事例を通じて、筆者が伝えたいことはどのようなことだと思いますか。 C：言葉や表情をやりとりすることによって、私たちは、それなりに心を伝えたり、受け取ったりしているということだね。	
まとめ	本時を振り返る。 ● ノートに本時の振り返りを記入する。 ● 振り返りを共有する。	● 「デジタルメモ」を確認しながら、振り返りの内容を交流する。

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られた効果

「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することで、本文の叙述をつなげて読むことが可能となり、「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」という単元のねらいを達成するための前提を整えることができる。次時以降も、本時の理解に基づいて、自分の考えをまとめることに寄与するものと思われる。

具体的には、「国語マーカー」と「デジタルメモ」の活用によって、よりよい授業改善につながっていく。

「国語マーカー」の活用

- 児童の発言をマーカーで引いていくことによって、全員の共通理解のもと、発言内容を共有することができる。
- 児童の発言ごとにマーカーの色を分けてもよい。「国語マーカー」は、色ごとに表示・非表示を切り替えることができるため、注目したい箇所だけを表示したり、比較をしたりすることができる。

「デジタルメモ」の活用

- 黒板に書く時間を短縮することにより、児童の見取りの時間を増やすことができる。
- 教科書本文を簡単に抜き出すことができるため、授業の流れや児童の思考を止めずに、スムーズに学習を進めることができる。

特に、「デジタルメモ」を活用することで、簡単に本文を抜き出して表にまとめることができ、本時の目標である筆者の考えを整理することにつながっていく。